

# 2 学年通信 「キセキ」



岩手県立盛岡第三高等学校 2 学年

令和 2 年 8 月 2 0 日(木) 発行 Vol. 26



三高マスコット「トナンくん」

## 総合的な探究の時間

Vol.26 に引き続き、ディベートについて振り返りアンケート②（記述式）より、各クラスから 1 点ずつ紹介したいと思います。

ディベートを通じて「日本における原子力発電」について学んだことを元に、「エネルギー資源の問題」について、あなたが考えている進路（学問、職業）でどう考えていかなければならないか書きなさい。

私は、今回のディベートを通じて、エネルギー資源には必ず良い点と良くない点があり、利点ではない点を改善することは可能だと感じました。

私は将来、教育学部に入り小学校の先生になりたいと考えています。小学校の先生になったとき、エネルギー資源の問題については自分だけで考えるのではなく、生徒を通じて多くの人とともに考えるべき問題だと思います。小学校の生徒にとってはまだよく分からない難しい問題だと感じるかもしれませんが、それでもいいと思います。なぜなら、頭の中のどこかに少しでもそのことが入っていればニュースなどを見たときに少しでも興味が湧き、徐々にエネルギー資源の問題について詳しく知っていくと思うからです。それを実現するために自分が出来ることは、朝の HR 等の時に少し話題を取り上げてみるとか、日々の積み重ねだと思います。小学生の生徒に長時間エネルギー資源の問題について話しても分からないでしょうし、興味が湧かないと思います。ですので、日常的に簡単にでもその話をすることで、生徒は「よくその話をしているけれどそんなに重要なのだろうか」などと思い自ら調べ出すかもしれません。そのような生徒、周りの人が増えていくことで、自分に出来ることは何かと意識し始め、個々の行動が変わり、それが学校が変わること、最後には社会全体が変わることにつながっていくと思います。（1 組）

私がディベートを通じて学んだことは原子力発電が廃止されたと仮定して、どうエネルギーをまかなっていくかを学びました。ディベートを重ねるうちに、原子力分の電力は取り戻すことができる、などということが分かりました。そこでその失われた電力は主に再生可能エネルギーでまかなうことです。再生可能エネルギーと言われ思いつくことは、環境に良いなどのメリットの部分だけが目立ちますが、たくさんのデメリットも持ち合わせています。そのうちひとつは立地条件です。原子力発電の立地条件もかなり厳しいですが、再生可能エネルギーのひとつでもある地熱はかなり立地条件が厳しいです。そもそも地熱発電ができる場所は国が指定している公園や既存の温泉街です。私は将来観光業につきホテルで働きたいと考えています。観光業で日本の売りと言ったら温泉だと思います。また、風情ある景色も観光業にはなくてはならないものです。しかし、風力・太陽光などは大規模な土地が必要なので自然を切り崩さなければなりません。このように、再生可能エネルギーは、エネルギー供給の代わりとして自然という代償が付きまします。どちらをとるべきかなどは私が考えることはできませんが、将来的に経済をまわすと考えると人口減少で伸び悩んでいる観光業より、エネルギー生産につとめ他のものを生産できる接続可能エネルギーの方が良いのかと思います。脱原発を前提として、市民の不安をなくすることが第一かと考えます。（2 組）

私は大学で商学について学びたいと考えています。経営の方法やサービスについてや商業に関する問題を知りたいです。

ディベートを通して、日本のエネルギー問題について考えてきて、企業が進んでエネルギー問題を考えていくことが重要であると考えました。企業の多くはいわゆる CSR の観点から様々な社会貢献・環境保全活動を行ってきていました。しかし、本業と関係のない活動が多かったと知りました。これに対して、SDG s は本業を通して目標達成に取り組むことが重要であると示唆しているため、各業務を細分化することで、エネルギー資源問題にも関係する SDG s の目標達成に結びつく要素が見えてくると思います。資源エネルギー庁によると、2016 年度の製造業におけるエネルギー消費の割合は全体の約 16%を占めています。また、エネルギー源別消費をみると、石炭・石油・石炭製品の割合が 57.9%、これに対して再生可能エネルギーはわずか 0.5%という割合です。これらのことから、企業が進んでエネルギー問題を考え直すことが大切だと考えます。エネルギー問題を企業が考えるには、SDG s に取り組むことは必要だと考えます。SDG s に取り組むことは、顧客や投資家をはじめ、社会に良いイメージのブランディングができると思うため、メリットとして、企業はエネルギー問題に取り組むべきだと考えます。（3 組）

ディベートを通じて、「日本はいずれにせよ、原子力発電以外の方法で電力を賄わなければならない」ということが分かった。福島第一原発の事故から9年がたった今、日本国内で稼働している原発は9基であり、いずれも事故を起こした福島第一原発とはタイプが異なる「加圧水型」で西日本に集中している。事故の危険性や放射性物質が人体に及ぼす悪い影響が大きいことなどにより、発電方法が見直されつつあるが、このことによってさまざまなエネルギー問題も発生している。2017年の段階で日本エネルギー自給率の割合は約10%とほとんど全てのエネルギーを海外に依存していると言えるだろう。

私は今、放射線技師になることを目標に学習に励んでいる。放射線技師は名の通り、放射線を使って人々の体の治療をしたり、検査をしたりする。放射線は確かに大きな規模で使用する場合、リスクが高まってしまう。けれど、医療の現場においてはがん細胞を破壊することに用いられ、乳がんの早期発見につながるマンモグラフィ検査（乳房X線検査）等で活用されていることから必要不可欠のエネルギーであると言えると思う。利点のみのエネルギーは存在しない。しかし、少しでも利点があるならその利点を生かすべきであると思う。放射線の危険性と有効性・それぞれに対してしっかりと目を向け私たちの生活にどのように生かしていくのが最適であるか模索していくことが大切だと思う。そのためにも、より多くの人々が「エネルギー問題」について関心を持ち、専門的な知識を身につけるべきだと私は考える。まずは自分自身が当事者となれるように努力を重ねていきたい。(4組)

大きな改革をしたり、新しい機械を作り出す前に、日常の無駄をちょっとしたアイデアや工夫によって解決できないか考え、世の中に提案していくこと。7月から始まった、プラスチック制買物袋の排出抑制、促進を目的としたレジ袋の有料化を例にする。この政策が始まり多くの人々がエコバックを持参するようになった。この環境保全対策が始まったばかりの今はエコバックの使用者が増えてはいるが、しばらくすれば人々の意識は自然と薄れていく。そうなったときに、エコバックは持ち歩きにくさや、不便さ、デザイン性を理由に使われなくなり、結局これまでと変わらないレジ袋利用率になるだろう。このように、環境問題などを考えるときは人々の意識を根本から変える必要がある。難しい気もするが、デザインに多様性を持たせる、形状・用途を工夫するなど、誰もが思いつきそうなことを実際にやるだけでもかなりの効果があると思う。つまり、様々な視点からエネルギー資源の問題を捉え、解決するためのアイデアの工夫をすばやく形にし、新しいライフスタイルに変えるきっかけを生み出していくことが大切であり、常に考えていかなければならないことである。(5組)

今日原子力発電はCO2を排出しないクリーンなエネルギーであると言われているが、事故による環境汚染が重大視されているため私は将来的に再生可能エネルギーが発展しにくいと考えている。農業面で考えるとバイオエタノールの有効活用がある。しかし、使う頻度を間違えるとサトウキビ畑に与える影響が大きく電力不足も考えられるためどのエネルギー資源を使うにしても、「使いすぎず、ほどほどに使う」ことが大切であると思った。また、近年日本では少子高齢化と科学技術の発展に伴って農業の機械化が進んでいる。効率さや安全供給を重視しなければならないのは分かるが、本来「いただきます」という挨拶の意味にも含まれているように自然の恵みや手間をかけて育てることがその食べ物の真のおいしさを決めると思うので、機械や電力に頼らない農業も大切であると思った。または、周りの自然や農業というのを生かした発電による農業が好ましいと考えた。

日本は現在多くのエネルギー資源を輸入に頼っている。もし、何からかの理由で日本が孤立した場合、エネルギーが不足し、人々の生活が成り立たなくなることが目に見えている。しかし、最悪の場合「食べ物」「飲み物」があれば生きていける。そのため、日本に限らず全世界で「持続可能な農業」することがもっと重要視されるべきではないかと思う。環境を守り、災害に強く、将来エネルギー資源に依存することなく続けられる農業についてこれからより深く考えていきたい。(6組)

**総合的な探求の時間で第2タームでは、グループごとに研究テーマを決定し研究活動**

**に取り組む予定です。**